

コロナ禍転じて福としましょう

講師 神田 香織



芸人の現状

芸人、フリーターは国民ではないの？

この原稿を書いている3月初旬、緊急事態宣言の再延長が決まりました。菅首相は「国民の命と暮らしを守るため」と言いますが、その国民に私たち芸人、舞台俳優、音楽家といったフリーターは入ってないのでは？ と皮肉の一つも言いたくなります。去年はほとんどの仕事がキャンセルか延期になってしまった私たちは、せめて今年は頑張りたいと張り切って正月を迎えたものの、ほどなく緊急事態宣言が出てまたしてもキャンセル。また主催者側も客数を半分にした上で会場の換気や消毒、密集を避ける対策に重い負担がかかり、小さな劇場やライブハウスなどはとても営業できません。しかも夜の8時には営業終了です。閉店休業を余儀なくされ多くの失業者を生み出しています。私のジャズ入り講談のきっかけを作ってくれた新宿のお店も閉店を余儀なくされてしまい

ました。新聞によると失職者は一人を超え、生活保護申請は大幅に増えているとのこと。憲法で保障されているはずの基本的な人権はどこへいったのでしょうか。

講談は「強きをくじき弱きを助ける」

暮れに池袋中央公園での「臨時相談会」の炊き出しを手伝いました。炊き出しとは言っても感染予防でパンの袋の手渡しでしたが。中高年の方に混ざって若い男女の姿もありました。つい先日までの生活を奪われ呆然としている若者たち：かける言葉が見つかりませんでした。

昔から講談は「強きをくじき弱きを助ける」というように「女、子ども、年寄り」は守るべき存在です。菅政権は一月からの緊急事態宣言では国民一律10万円の再給付金も持続化給付金も出していません。一方で感染を拡大したG・T・Oキャンペーンには気前よく巨額の税金を投入。自分の息子が関わる会社の総務省への違法な接待も明るみに。「強きを助け、弱きをくじく菅政

権」、洒落になりません。

補償、ドイツと日本の違いはなぜ？

それにしてもなぜ我が国の緊急事態宣言は他国のように補償とセットではないのでしょうか。アジアでは香港、韓国、台湾も補償とセット。ヨーロッパではフランス、スペインは休業補償全額、イギリスではお店の従業員の給与が3カ月8割補償。ドイツに至っては「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要」とまずは3カ月分60万円振り込みました。その後もロツクダウンのたびに同じ対応です。表現者をリスpektするドイツ政府、羨ましい限りです。同じ敗戦国でもなぜここまで違うのでしょうか。やはり戦争の責任を曖昧にする国と何十年たつてもとことん戦犯者を捜索し断罪する国の違いかもしれません。

コロナ禍であぶり出されたこの国の正体

コロナ禍はこの国の正体を見事にあばいてくれ、安倍菅政権には危機管理能力がないことも明らかにしました。過去の感染症対策を教訓とせず、1990年代の行政改革で全国の保健所を半減させ、病院の統廃合も進み、今日のコロナ禍で保健所や医療関係者たちに過重な労働

を強いています。それなのに、政府が正確な情報を隠蔽して不安を煽っているから、医療関係者はじめコロナ感染者を差別する人たちが出てくる、原発事故後の「福島差別」と同じです。原発事故後の「国民が不安になるから情報を出さない」「放射能被害はできるだけ検査しない」という政権の責任放棄は今回のコロナ禍でも繰り返されています。

コロナ禍転じて福となす

一方でそうした政府のやり方に多くの国民が疑問を持ち始めているのも事実です。コロナ禍になって、放射能に怯えいじめに耐える福島の人たちの心情がはじめてわかったという人たちが大勢います。外出自粛という不自由を体験し、他人の痛みを思いやる想像力が培われています。またコロナという禍が、オリンピック開催に焦る森喜朗氏の女性差別発言を引き出してくれました。「女性が多い会議は時間がかかる」。森さんにつき「ボランティアはまた募集すればいい」とまるで戦争に兵力をどんどんつき込む感覚で発言した二階さん、「給付金は貯金に回ったんだらう？」とうそぶく麻生さんといった自民党の重鎮たち、国民の貧困を想像しようもしない真からの差別主義者たちに厳しい目が注がれ始めている

のはまさに「コロナ禍転じて福となす」と言えます。

自民党の底力

森喜朗氏といえば、その昔、彼が首相だった頃の「日本は天皇を中心とした神の国」発言に国中が沸騰。支持率が8%まで落ちた時、「今ならいける」と社民党県連の熱心な要請を受け、福島選挙区から参院選に出馬したことがあります。2001年の夏、娘たちとともにいわき市に居を移してしばらく経った頃でした。自民党の凄さ、底力がわかったのは出馬表明をした直後です。総裁選を前倒しして4月に小泉純一郎が首相に。党の顔が変わった途端、支持率8%がなんと80%の支持率に急上昇。メディアを総動員し「小泉の構造改革に力を」のポスターが国内、県内いたるところに貼られ、私は「小泉さんに力を貸して会社を、お店を潰さないで」と訴えて歩いたものでした。結果は次点、逆風の中11万票以上獲得、応援してくれた皆様にはいまでも感謝しています。

その後日本は小泉、竹中路線の構造改革で非正規が当たり前になり今日の格差社会に。私は選挙に出たことで「女のくせに生意気だ」と仕事はなくなり、今のコロナ禍のような状態になったものです。あれから20年。今、後手後手のコロナ対策、菅首相の総理としての資質や自

公衆院議員のクラブ訪問、森さんの失言など失点続きですが、自民党の先生方は選挙になると「頭脳明晰」になりますから、決して油断しないで今年の衆院選、野党共闘を徹底させ、必死になって国民の怨嗟の声を集めてほしいし、私も応援がんばりたいと思います。

2月13日の地震の教訓

コロナ、オリパラの話題であげられるこの国に警鐘を鳴らすごとく、東日本大震災、福島原発事故から10年目の311を目前にして、2月13日の深夜、福島沖震源の地震が発生しました。福島県の中通りと浜通り、宮城県南部で震度6強を観測。大津波、そして原発事故に見舞われた10年前の記憶がよみがえり私も恐怖に震えたひとりです。いわき市の実家周辺は震度5。居間の壁が剥がれた程度で済みましたが、震度6強の相馬市では土砂が崩れ常磐自動車道を塞ぎ、新幹線も止まりました。3日後の発表では浜通り中通り中心に負傷者83人1400棟に被害があり今後増える見込みとのことでした。この地震は10年前の余震で少なくとも30年続くと気象庁が発表、この日本のどこに「核のゴミ」の、そして「10万年の安全保管」という場所があるのでしょうか。女川原発はじめ、改めて全ての原発を廃炉に！



現在も廃炉作業の続く福島第一原発。2月13日の地震は3・11の悪夢を思い起こさせた。しかし、政府の原発推進の姿勢は変わらない。

と今回の地震は警告しています。

最後に

原発事故も「絶対安全」なのだから津波対策などどうでもいいとわずかなお金を惜しんで、フクシマに取り返

しのつかない禍根を残しました。猛省すべきなのに歴史から学ぼうとしないから過ちはこれからも繰り返されるでしょう。でも国民はコロナ禍という想定外の災いに遭遇したことで危機意識が強くなりました。2月13日の地震直後、防災関連グッズを買う人が増えたのはその証左です。国民は危機意識が強くなっても政府に危機管理能力がないのではどうにもなりません。しかし絶望にはおよびません。考えてみればこれらはわずか150年前からの明治からつづく長州政治の結果でしかないのですから。私がコロナ禍で再認識したことは「今」も「未来」も「過去」から続いているということ。明治以降の教育で暗く厳しい封建主義とすり込まれた江戸時代ですが、実は太陽エネルギーの循環型を実現していた世界で初めての大都市が江戸だったのです。太陽と共に寝起きする質素な暮らしですが、その貧しさが余暇を生み出し遊芸が盛んで、当時の庶民は「さあ、きょうは何をして遊ぶうか」と。私は講談を通じて時に江戸時代にワープし、また戦争を語るときは戦争体験者になった気持で怒りに震えたりし、それが気持の支えとなっています。今は思うように仲間と会えなくても明るい未来を想像し、来るべき選挙で目に物を見せてやろうではありませんか。

(かんだ かおり)